

科目	単位	時間	履修学年	講師名
在宅療養を支える看護Ⅲ	1	30	2	北島 昭弥
ねらい	地域で療養・生活する療養者と家族の健康問題に対して、看護計画を作成し看護の実際を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	地域・在宅療養における看護過程の特徴	講義		
2回目	在宅で人工呼吸療法をする筋委縮性側索硬化症患者の看護事例紹介	個人ワーク		
3回目	地域・訪問看護記録1・2に沿って情報整理	個人ワーク		
4回目	地域・訪問看護記録2・3に沿って情報整理、情報分析	個人ワーク		
5・6回目	訪問看護記録3に沿って情報整理・分析	個人ワーク		
7・8回目	訪問看護記録4に沿って社会資源の整理・分析	個人ワーク		
9・10回目	看護問題・看護目標	個人ワーク		
11・12回目	訪問場面の実際・援助計画立案	グループワーク		
13・14回目	看護の実践・グループ発表	グループワーク		
15回目	地域・在宅看護論実習にむけてまとめ	講義		
教科書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (メディカ出版)			
評価方法	小テスト (講義中に実施します) 課題提出 (内容・期日)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> 筋委縮性側索硬化症患者の事例を通して、地域・訪問看護記録に沿って展開します。対象の疾患や症状だけではなく、療養者の療養環境や生活背景、家族の介護状況、社会資源などから対象が望む在宅療養を継続していけるよう対象を捉えることが必要です。演習では事例から抽出した看護問題・看護計画を訪問看護の一場面を想定して発表します。 事前学習、テキスト、授業資料など必要な資料は毎回持参して下さい。 評価方法については講義時に説明します。 			